

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1192200085		
法人名	社会福祉法人ルストホフ志木		
事業所名	グループホーム ブロン		
所在地	志木市本町2丁目10番50号		
自己評価作成日	令和5年2月15日	評価結果市町村受理日	令和5年3月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル1階
訪問調査日	令和 5 年 2 月 24 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症状のある方を対象に家庭的な環境の中で、少人数のご入居者が共同生活を送る介護福祉施設です。ご入居者の心身の状況に応じ、料理や掃除といった役割を担いながら、可能な限り自立した生活を送れるよう、介護スタッフが援助をさせていただきます。また、住み慣れた地域での地域交流を主とした社会参加、生きがいの創出なども図ります。今年度もコロナ感染症対策を重視し、落ち着いた日常生活が送れるように創意工夫をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

各事業所の職員が集まり、毎日朝礼で職員綱領を唱和している。そこで、法人理念の理解共有を図り支援の実践に繋げるよう努めている。事業所の目標では、住み慣れた街でその人らしく生活できるように「パーソンセンタード・ケア」を大切にすることを掲げている。利用者が落ち着かない時は、その人の立場に立って理由を考え、声かけを行うなど、利用者一人ひとりの状況と時間によって声かけを変える工夫をしている。介護計画は、利用者の居場所ができるように一人ひとりの役割を大切に、良いところは伸ばし、マイナス面はゼロを目指す考え方で作成している。利用者職員が一緒に行動することで認知症予防、自立支援に繋げている。コロナ禍で色々な制限があるが、作品展に習字や絵画を出展することは、利用者の目標になっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が ○ 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が ○ 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念、職員綱領に基づき、事業所独自の目標を作り、半年に1度、達成状況の確認を行っている。	「住み慣れた街でその人らしく生活できるように」を目標とし、パーソンセンタード・ケアを大切にしている。職員と実践の中で共有し支援に繋げている。朝礼では、全事業所の職員が集まり職員綱領を唱和している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	例年、町内の文化祭には毎年作品を展示させていただいたり、多数のボランティアの受け入れをしている。また、毎日の散歩の中で地域との繋がりを大切にし、コミュニケーションを図っているが、コロナの影響により、最小限となっている。	コロナ禍で近隣との交流は、土手を散歩中に挨拶をする程度に止まっている。近隣の保育園児がほぼ毎月作品を届けてくれるので、食堂の壁に貼り楽しんでいる。利用者の作品は県の作品展に出展している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	例年、県老人福祉施設協議会主催の作品展に出品したりしている。実習生の受け入れを積極的に行い、認知症の方を理解した人材の育成に貢献している。認知症サポーター養成講座へ参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では必ず入居状況や日常生活における活動や実施報告を行っている。写真を活用し、出席者と意見交換をしている。	コロナ禍の為、2か月に1回書面開催としている。活動写真、概況報告等を載せている。関係者に書面だけでなく電話で詳しく状況を伝える他、意見をもらっている。現在は職員に対しねぎらいの言葉が多い。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	志木市の福祉担当職員と随時連絡調整をしている。わからない事がある場合には、メールや電話、市役所に足を運び連携を図っている。	運営推進会議を主として、連携を図っている。事業所建物内に地域包括支援センターがあり、情報を得たり意見交換をしている。法人理事長が埼玉県社会福祉協議会の役員でもあり、連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルの整備をしている。また、3か月に1度部署内研修にて身体拘束をしないケアの徹底をしている。安全面を考慮し、玄関の施錠は行っているが、ホーム内はご入居者が自由に行き来できる環境である。	建物内は自由に移動できる。利用者が家に帰りたいと言う時には、キッチンに誘う等、時間毎に声のかけ方をかえ、利用者が不穏にならないような支援の工夫をしている。言葉使いは常にその人の立場にたったことばを選ぶよう意識している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルを作成し、虐待防止に努めている。また、虐待に関する研修を行い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域包括支援センターと協力し、必要な方を支援できる体制がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書の読み合わせを行い、わからない点が無いように十分ご理解の上で契約を結んでいる。重度化した時の対応、医療の連携体制、ケアの考え方・取り組みについても説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時等、随時要望や意見を伺い、要望に対してフロアで話し合い、ご入居者本位の運営を心掛けている。	コロナ禍前は9時から21時まで面会ができたので来場時に聞くことができた。かつては、家族に運営に協力してもらえたこともあるが、現在は電話連絡やタブレットを活用し、ご意見、ご要望を伺っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時の個別面談や会議、また、業務時間内外において積極的にスタッフの意見を聞き、運営に反映させている。	職員からその都度意見を聞く機会を設け、リーダー会議で話し合い、業務内容の見直しや利用者の身体状況の変化に合わせた支援方法を検討し共有している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回、考課シートにて自身の振り返りをするとともに、個々のスキルに合わせた目標設定を行い、スタッフ一人ひとり、事業所、法人としてスキルアップに努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外において、スタッフ一人ひとりの力量に合わせた研修の機会を設けている。スタッフ間でも介護知識・技術向上に情報共有、助言、指導を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各種会議や委員会を設け、スタッフ同士の交流や情報交換の場を複数設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に生活歴や性格・疾病・不安材料、どのような生活を希望されるか等、十分に聞き取りを行い、スタッフがそれらを理解することで信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族が困っている事、不安な事等の聞き取りを行い、安心していただけるよう丁寧な対応を心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族とご本人の面談時にニーズの把握を十分に行い、必要に応じて他の事業所のサービスに繋げるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に活動することを重視している。ご入居者の心に寄り添い、思いを受け止め、相手の気持ちを考えながら、ご入居者との信頼関係を構築している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と共に、ご入居者の情報を共有し共に支え合うように支援している。面会の機会やご家族参加型の行事を企画し、スタッフも含めて信頼関係を構築している。電話連絡、メール、SNSを活用し、情報共有、意見交換している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の了承のもと、いつでも知人や馴染みの方が面会に来られる環境を整えている。コロナの影響があり、状況に応じて面会は制限している。また、ご本人の馴染みの物を持ち込んでいただいたりと、一人ひとりの生活習慣を尊重している。	コロナ禍前は家族と外出、外泊等自由としていたが、現在は制限をしている。来場者の数も減っている。事業所内の利用者同士や職員との関係は良く、笑い、悲しみ、怒りなど感情を共にできる仲になっている。	コロナ禍で外出や交流を制限せざるを得なかったが、緩和方向にあるため、利用者の関係継続支援が再開できることを望みます。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	散歩や食事作り等、ご入居者同士が関わり合いを持てる機会を設けている。また、フロアでも関係性に配慮した雰囲気や関わりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、面会に伺ったり関係性を大切にしている。また、ご家族から相談があった場合でも、快く相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご入居者に選択していただく場面を日々の生活の中で設け、思いを把握するよう努めている。また、居室担当を設けて一人ひとりの意向をより細かく把握するよう努めている。本人の気持ちを尊重して、臨機応変に、柔軟に対応している。	個々の趣味や嗜好等を家族から細かく聞き、それを基に利用者の話を傾聴し、思いや意向を把握するようにしている。居室担当制を設けており、職員との信頼関係を深めて本人本位の支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族やこれまで利用されていた事業所・関係各所から生活歴や性格・趣味等の聞き取りを行い、スタッフ間で共有している。入居後もご家族からの情報を取り入れている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	集団生活の中でも、ご入居者一人ひとりの生活パターンと生活リズムを理解すると共に、様々な角度から多角的に、ご入居者の心身状態を捉え、一人ひとりに合わせた声掛け、関りを心掛けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご入居者やご家族の思いや意見を聞き、ホームでの日常生活に反映させるようにしている。またスタッフ間での意見交換や情報共有、会議を実施し、介護計画を作成している。	家族は「どうやって連れて行けばいいのか」や「施設に馴染むだろうか」と悩むことが多い。入居後一週間が大切と考え、自分の居場所ができるような介護計画を作成して、良いところを伸ばす支援に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録は個別に記録を取り、食事や排泄・バイタル等は共有しやすいよう一覧になっている。また、フロア毎の連絡ノートで情報の共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご入居者の希望に合わせて訪問理容や訪問マッサージを取り入れたサービスを提供している。その他、ご入居者本人、ご家族のご希望を伺い、少しでもご希望に添えるように検討、対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	例年、積極的に市や町内会の清掃活動や文化展への参加やボランティアの受け入れ等を通じ、生活の質の向上に努めているが、今年度はコロナ感染拡大の影響により、最小限にしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望に応じて、協力医療機関の往診を受ける体制がある。その他、外部のかかりつけ医への定期受診や緊急時等、必要に応じて、ご家族と連携し、スタッフが通院を支援している。	各フロア月2回訪問診療がある。毎週医師が来ていることで、利用者の健康管理が充実している。医師は排便コントロールを大切に考え、最低3日おきの排便を促している。健康に効果が現れている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活におけるご入居者の心身状態の変化に注意し早期発見・早期対応に徹している。心身状態変化を記録するとともに、24時間体制で、看護師との連携、医療機関との密に連絡が取れている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に面会や連絡をして、医療機関との情報交換に努めている。また、退院時においてはホームでの生活における注意点、適切なケア、生活リハビリなどが出来るように医師に指示を仰いでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご入居者の心身状態をご家族・看護師・医療機関と共有しつつ、重度化した場合に限らず、状況に応じて、今の状態や今後について話し合う機会を設け、ケアや今後の方向性を相談、検討している。	終末期は病院や療養型に移動する人が多い。看取りはおこなっていないが、家族・利用者の希望もあり、出来る限り事業所で支援をしている。コロナ感染で入院された人も、家族の希望で事業所に戻り元気に過ごしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備え、マニュアルが整備されている。応急手当や初期対応について法人やホーム内で研修を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	様々な災害を想定し、消防の協力を得て、避難訓練と消火器の取り扱い訓練を実施している。防火設備の取り扱いなどを随時確認している。地域に対しては運営推進会議の場にて協力を呼びかけている。	年2回、消防署立ち合いで火災、水害想定で避難訓練をおこなっている。特に水害は危険区域になっており、いろいろな経験、情報から対策のイメージを持っている。地域の方からも気にかけてもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人の人としてしっかり向き合い、ご入居者の尊厳を大切にされた声掛けを心掛けてしている。相手の立場に立った声掛けと関わりをしている。	月1回、内部研修で折りに触れて尊厳・プライバシーについて学んでいる。特に法人理念、職員倫理綱領では尊厳・プライバシーが含まれているため、常に意識するところとし、支援に繋げている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	こまめに声掛けし気持ちを伺ったり、説明をしたうえで、ご本人の気持ちを尊重した働きかけをしている。表情や仕草など言動に注目し、少しでもご入居者の気持ちを尊重するように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の生活を保ちつつ、ご本人のペースを大切にして、可能な限り自宅での生活に近い雰囲気作りとその人らしい生活が送れるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床後の整容、爪切り、洋服を選んでいただくなど身だしなみを整え、清潔感の保持をしている。行事やお出かけする際には化粧したりと、おしゃれができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	積極的に食事の準備、調理、盛り付け、配膳、片付けなどを手伝っていただき役割を持ち、自信をもっていただくような関わりをしている。郷土料理やリクエストメニュー、実演調理などを行い、楽しい食事の時間を作っている。	厨房の職員が定期的に利用者から直接希望を聞き取り、メニューに取り入れている。食事作りやおやつ作り、郷土料理、店屋物、行事食等、思考を凝らした食事は楽しみになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が立てた献立に基づき、直営厨房で調理した食事を提供している。ご入居者に合った食事形態を提供し食べやすい環境を作り、食事量・水分量を記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声掛けや義歯の洗浄をご入居者の能力に応じて支援している。夜間は義歯をお預かりし洗浄している。口腔内に異常があれば歯科往診にて対応し、早期発見・早期治療に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個々の排泄パターンの把握に努め、自立に向けた支援を行っている。排泄に失敗された場合、自尊心を損なわぬよう他のご入居者に気付かれないよう処理するなど、きめの細かい排泄の支援を行っている。	排泄チェック表でパターンを把握し声かけをしている。タイミング良くトイレ誘導をすることで、紙パンツから布の下着になったケースもあり、ズボンの上げ下げの促しを行う等、自立に向けた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	チェック表で排便状況を把握し、積極的な水分摂取を促し、健康体操・口腔体操・散歩を通じて身体を動かす機会を設け、自然排便が出来るよう取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご入居者の意向を聞きながら、週2回以上の入浴を行っている。	週2回の入浴を基本としているが、2回以上も可能としている。好みの温度や湯量の調整をしている。一対一の支援なので、利用者はリラックスして入浴ができ、普段以上の会話が楽しめるよう心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご入居者の生活習慣を尊重し、個々の心身状況・睡眠状況を把握し午睡していただく、夜間に眠りの浅い方については、日中の活動を工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の薬表をファイリングし、スタッフが内容を確認しながら準備している。服薬時にはスタッフ2名で名前・時間・薬数を確認し服用し、服用後の口腔内の確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アセスメントより個々の生活歴の活用、調理、掃除、洗濯などの手伝い、趣味や特技をいかしたレク活動、ボランティアとの活動を通して、役割を持ち意欲的に生活していただくよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を感じ気分転換が図れるように、地域住民との交流の場として、ご入居者の心身状態を考慮し外出の機会を多く作っている。また屋上も活用し気分転換を図っている。またリハビリを兼ねている。	コロナ禍のため外出支援が減っているが、天気の良い日は土手を散歩したり、屋上に出て日光浴をしている。また、厨房まで食事を取りに行くなどで、施設内を歩くようにして、気分転換を図っている。散歩中や窓越しで近隣の人と手を振りあっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはご家族よりお小遣いを預かり、金庫にて保管。個別の買い物などご本人の希望と能力に応じて使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの手紙を受け取りご本人にお渡しすること、電話でのやり取りをされる方もいる。またテレビ電話やSNSを活用している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	開放的なホームなので、季節を感じていただけるようにカーテンの開閉をこまめに行っている。キッチンがフロアに隣接しており、食事を作る音や匂いなど生活感の感じられる空間となっている。居心地良く生活していただけよう支援している。	大きな窓からは桜や新緑が楽しめる。席を変えたり、ブラインドの開閉により明るさの調整をしている。食堂では、レクリエーションや体操等を行い、思い思いに過ごしている。利用者の手洗いと事業所内の消毒をこまめに行い、清潔に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアには食事や作業で使用するテーブルのほか、ソファを置き、気の合うご入居者同士でくつろげる環境を整えている。またご家族が面会されるときにもソファで談笑できる空間を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた物、馴染みの物を持参していただくようご家族に協力いただいている。ベッドや家具の配置にも配慮している。ご自身で制作された作品を居室に飾られたり、居心地良く生活していただけるよう支援している。	タンスや冷蔵庫、仏壇等、馴染みの物を持ち込んでもらっている。ベッドや家具の配置は、個々の利用者の状態に合わせた置き方で、安全を確保できるように努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご入居者が安全に、自立した生活が送れるようにスタッフ間で心身状態の把握、情報を共有し支援している。		